

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870700610		
法人名	〔有〕日本健康管理システム		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	神戸市須磨区行幸町4-4-8		
自己評価作成日	平成27年3月13	評価結果市町村受理日	2015年 6月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2015年 4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく」を基本とし、利用者様の個性を生かした支援を行っている。
フロア内には季節ごとに手作りの壁飾りを作成し、利用者様の作品を掲示している。併設の小規模多機能ホームと合同でクリスマス会や運動会など行い、交流を図っている。また、自治会の清掃活動やふれあい喫茶に参加するなど地域との交流に努めている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

移転から3年が経過し、自治会の毎月又は季節毎の清掃活動への積極的な参加により徐々に地域との信頼関係を築きつつある。運営推進会議では、民生委員から地域の情報や助言等を受け、地域交流促進に活かしている。利用者は、高校生ボランティアの同行で外食を楽しんだり、家族の協力を得て年に1回遠出することもある。馴染みの来訪者は少なくなりつつあるが、地域の学生ボランティアや小学生の来訪があり、利用者は歓迎している。階下には併設の小規模多機能型事業所があり、管理者は、交流スペースを活用して地域との交流機会を作りたいと考えている。今後それが実現され、継続して地域住民との交流を推進するとともに、防災訓練等の協力体制にもつながっていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”ゆっくり・一緒に・楽しく”の理念を職員全員に周知し、意識づけるよう業務の中で声かけを行っている。	日々の業務の中でフロアの目のつく所に掲示し、業務日誌にも貼っている。利用者が自分のペースで生活を行えるよう「ゆっくり待つことも大切」と職員同士声掛けし、意識するよう心掛けている。全職員で理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩に出かけた時に地域の方に挨拶をする、ふれあい喫茶に参加するなど地域の方々と交流を行っている。	前向きに地域との交流を大切に考えている。きっかけ作りに時間を要したが、今は併設の小規模多機能事業所が参加している自治会の夜間パトロールや、近隣の公園などの草抜き等への職員参加を通じて、事業所が周知されつつある。学生ボランティアや小学生の来訪などもあり、徐々に信頼関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の小規模多機能事業所と共同して地域の方対象に認知症キャラバン養成講座を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席されている方からのご意見や助言を受け止めサービスに活かしている。	地域住民や郵便局職員、家族、民生委員、地域包括の参加もあり、認知症の理解を深めるための研修会などを行った。服薬に関する間違い等があり、事故報告を行った。参加者からの意見や助言を活かしマニュアル改善を行い、運営推進とサービスの向上を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当との連携が取りあえておらず協力関係が築けていない。	最近市の担当者が代わるなどで新しい担当者との連携がうまく取れていない。社協などと情報交換、相談を行い協力関係と連携を図っている。法人の事業所同士の情報交換を行いながら市との連携をとるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行うことで周知が図れ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新聞やニュースなどの事例を基に職員会議で話し合い、研修報告書を通じて日々の業務を振り返っている。職員は介護力向上と身体拘束をしないケアに、日々取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に毎年、全職員対象に研修や事例検討を行い虐待防止に努めている。	年間3回、2時間以上の研修を行っている。事例に基づいて、神戸市製作のDVDを基に話し合いを行い、全職員で学んでいる。学んだことを活かせるよう、管理者が職員一人ひとりの話を聞くなど、虐待防止の支援に努めている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に制度を利用している入居者がいるが、全ての職員は制度を理解できていない。	管理者やリーダーは法人の研修を受け学んでいる。高齢者サポートセンターを利用している利用者もいる。全職員が制度を理解することで、より活用を推進していく必要があるが、伝達研修は、まだ行われていない。	会議の中でも折をみて、職員への伝達研修を行っていただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に十分な説明を行い、疑問等には分かりやすく丁寧に説明を行って納得できるように図っている。	家族の不安や質問の一番多い重度化、看取りについての説明を丁寧にしている。看取りの同意書も必要に応じて交わしている。十分納得の上での契約となるよう時間をかけ、入居後も質問の受け付け、説明を必要に応じて行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、事業所や外部申し立て機関の説明を行っている。事業所への意見や要望の訴えの表出時は管理者へ報告し、対応している。	家族来訪時に、意見や要望を聞く機会を設けている。電話で利用者の情報を知らせる際にも、要望や意見を聞くようにしている。運営に関する意見は、これまであまりないが、個別の要望については職員間で話し合い、支援に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やリーダー会議に出席し意見を聞き、反映できるようにしている。	法人の事業所間でシフトの応援などを行い、無理のない職員体制を図っている。管理者は、個別に職員の話聞くなど、職員が意見や提案を出しやすい環境作りを心がけている。会議等では活発な意見交換が行われ、出た意見や提案は反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロア会議や全体会議の内容の報告があり、また職員個々の意見を聞き職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保しており、研修が受けやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域ケア会議等に参加し交流する機会があり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談を行い、本人の困っていることや不安なこと等を聞き、安心感を引き出せるように取り組んでいる。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた段階から家族の困っていることや要望等に耳を傾け、信頼関係を構築できるように努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や問い合わせがあった時に今、必要としている支援を見極めて他のサービスも含めて相談に応じている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や食事の後片付け、掃除などの家事等を本人の出来る力に応じて手伝っていただき、共に支え合える関係づくりに努めている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に家族が面会しやすい雰囲気や家族の協力を得て受診や外出の機会を設けるなど、職員は家族も共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問を受ける、墓参りに行くなどこれまでの関係が途切れないように支援している。	日々のコミュニケーションの中で利用者の希望を聞き取り、馴染みの喫茶店へ行くこともある。理美容店などにも行き、利用者の思いに添った支援が行えるよう努めている。来訪者は少ないが、家族等の情報を得て、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員間での情報の共有を図り、利用者同士の会話に職員も一緒に加わるなど共同生活が円滑に維持できるように支えている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時は本人や家族等の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らしについての希望や意向を把握するように努めている。	個別の連絡ノートを作り、利用者一人ひとりの楽しいと思うことを見つけている。思いや意向の把握しにくい利用者には、職員のチームワークで日々の変化を観察、細かいことも見逃さないよう注意している。職員間で共有し、ゆっくりコミュニケーションをとりながら把握に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで受けたサービスや本人の生活歴や暮らし方などを入居時から把握し、また本人からも話を聞くなど努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態や本人の出来る力などを把握している。また、職員から日々の情報により現状の把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、本人・家族等や職員と現状のケアについてや今後のあり方について話し合い、介護計画の作成に努めている。	主治医が往診の際に、家族等の参加を促し、担当者会議を開催することもある。医療関係者、家族、職員の意見を基に介護計画の作成をおこなっている。利用者の個別連絡ノートなどをモニタリングの土台とし、計画の見直しを行っている。現状に即した計画となるよう普段から意識している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や気づきなどを個別に記録し、連絡ノートの活用などで職員間の情報共有を行い、実践や見直しに活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人本位に考え、散歩や買い物など本人の希望に応じて柔軟に対応している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の広報や民生委員の方から情報を把握し地域の催しなどの参加や地域の神社などにお参りに行くなど日々の生活に関わりが持てるように取り組んでいる。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望したかかりつけ医の受診が受けられるよう支援している。	これまでのかかりつけ医の受診を継続し、原則、家族の付き添いとしている。やむをえない場合は職員が付き添い、場合によっては同行することもある。他科についても家族による受診としている。日常の状態把握に努め、日頃から家族との意思疎通を図っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた気づきや情報を職場内の看護職に伝え、適切な対応や受診が受けられるように支援している。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は医療機関に必要な情報を文書で伝え、安心して治療が受けられるように支援している。入院中も医療関係者や家族等から情報を把握し必要な援助を行っている。	普段の健康管理には十分注意し、早めの受診を心がけ入院回避に努めている。入院時は職員が見舞い、利用者への声かけとともに、状態確認及び退院の目途についても利用者、家族の意向を優先し、早めの対応を協議している。医療関係者とは、管理者及びケアマネが中心となり密な情報交換を図っている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の事業所の方針を説明し、本人や家族等の希望等を確認している。重度化した場合は再度確認して支援に取り組んでいる。	契約時に事業所の方針を説明し、その時点での利用者、家族の意向を確認しているが、状態変化に応じた意向はその都度行い、早めに医療関係者を交え相談の場を設けている。今年度、看取りの事例があった。看取りが想定される状況になった時は、職員のチーム体制を図り、協力体制を確保している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応はマニュアルがあるが、全職員に対して訓練が行えていない。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っているが地震や水害などの自然災害に対する訓練が行えていない。地域との協力が築けていない。	施設合同での定期訓練を年2回行っている。避難経路の確認及び通報訓練、機材の取り扱い等、利用者も一緒に実践に即した内容で実施している。車いすの利用者の避難については、今後検討の余地がある。防災全般、地域との協力体制についても継続して検討していく考えである。	今後も継続して、地域との協力体制の働きかけを望みたい。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような言葉を選び対応している。	高齢者を敬う姿勢を基本とし、それを踏まえ利用者同士の関係性にも注意している。職員は、利用者一人ひとりに添った言葉かけを行い、命令口調にならないよう語尾等にも気をつけるようにしている。利用者個々の場に応じたタイミングや表情を把握し、統一した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの出来る力に応じて希望や自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿って散歩やレクリエーションに参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の出来る力に応じてその日の服を選ぶ、整容をするなど支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなど個々の出来る事に応じて手伝って頂いている。	定期的に食材が配送され、基本メニューはあるが、利用者の好みやその日の希望で柔軟に対応している。利用者の役割ややりたいことを汲みとり、皮むきや調理、下ごしらえ、後片付け等を率先してやる人もおり、職員はタイミングを見て声かけている。職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、少ない時は工夫したり、体調により主治医に報告するなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや歯磨きなど個々の利用者に応じて支援している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を基に、利用者への定期或いは習慣に応じたその時の表情等を見て、声かけている。トイレでの排泄を基本とし、現在はおむつ対応はない。夜間は定期に声かけしたり、ポータブルトイレを利用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた働きかけを行い水分や運動などを工夫し、必要時は主治医の指示のもとで服薬支援も行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を一応は決めているが、本人の希望やタイミング、また拒否があるときやその日の体調により時間や日にちを変更するなど柔軟に対応している。	最低でも週2回は入浴してもらうよう声かけている。拒否がある場合は、タイミングをずらしたり、日を変えて声かけするなど、無理強いせず気持ち良く入ってもらっている。利用者の希望や状況に併せ柔軟に対応している。一番風呂や季節風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮し、本人の意向を確認した上で休息が出来るように支援している。また、夜間不眠時は話を聞く、一緒にお茶を飲むなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬の目的や副作用等の情報を職員が確認できるようにしているが、薬に対する理解は職員全員が把握していない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前までの生活や楽しみ事、嗜好等を入居時に本人や家族等から把握し、日々の支援に活かしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある利用者は地域へ日常的に散歩に出かけ、他の利用者も可能な限り事業所周辺に出かけている。普段行けない場所へは家族の協力をお願いしている。	気候のいい時期は、玄関前にテーブルと椅子をセットし、お茶を飲んだり、周辺を散歩している。必要な物があれば買物にも行っている。時には自宅に帰省し、家族や身内と一緒に過ごす人もいる。イベントとして家族にも声をかけ、みんなで外食や遠出を楽しんでいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により家族等との取り決めのもとで事業所が金銭管理を行っているが、本人の要望時は職員と一緒に買い物に出かけている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を掛けたり手紙を書くなどの支援を行っている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁を飾ったりして季節感が得られるようにしている。また、天候に応じて採光や室温に配慮している。	オープンキッチンが備えられ、調理中は窓を開けて換気には注意し、誰もが心地良く過ごせるよう配慮している。リビングは自然光が差し込み明るく、利用者は、思い思いの場所で過ごしている。季節が感じられる手作り作品が、癒しとなっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に配慮し、思い思いに過ごせるようにしている。フローアーによっては一人で過ごせる空間を設けている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れたものなどの持ち込みを入居前に説明し、居心地よく過ごせるように工夫して頂いている。	事前に、利用者、家族には馴染みの物を持ってきてもらうことを伝え、協力を働きかけている。利用者が使っていた椅子や日用品等をこちらからも提案し、身の周りに置いてもらっている。職員と一緒に写真を選び、飾ることもある。利用者にとってゆっくりくつろげる空間となるよう、心がけている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は廊下やトイレ内に手すりの設置があり、居室には表札をつけ、トイレの表示をするなど自立した生活が送れるように配慮している。		